



TITLE:

純粹資本(資金)ト資本財トノ差別及
ビ關係ヲ論ジテ諸家ノ批評ニ答フ

AUTHOR(S):

河上, 肇

CITATION:

河上, 肇. 純粹資本(資金)ト資本財トノ差別及ビ關係ヲ論ジテ諸家ノ批評ニ答フ. 經濟論叢 1917, 5(2): 175-194

ISSUE DATE:

1917-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127247>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷五第

行發日一月八年六正大

論說

營業稅ノ賦課キス(營業ノ範圍)……………法學博士 神戸 正雄

純粹資本(資金)ト資本財……………法學博士 河上 肇

中壽ノ說(三、完)……………法學博士 財部 靜治

現代の保險ノ成立(三)……………法學士 小島昌太郎

時事問題

製鐵業ノ獎勵……………法學博士 戸田 海市

支那ノ裁厘加税問題……………法學士 木村増太郎

雜錄

歐洲戰亂ノ南米ニ及ボセル影響……………山本美越乃

ゆこすらう民族運動(二)……………米田庄太郎

福島山形二縣ノ製絲業……………法學士 河田 嗣郎

臺灣人口總統計十年報ヲ讀ム……………文學博士 内田 銀藏

戰時利得稅ノ諸例……………法學博士 神戸 正雄

學界ノ巨人しゅもら逝ク……………法學博士 神戸 正雄

純粹資本(資金)ト資本財トノ差別及ビ

關係ヲ論ジテ諸家ノ批評ニ答フ

河 上 肇

第一、序 言

第二、純粹資本(資金)ト資本財トノ差別

第三、純粹資本(資金)ト資本財トノ關係

一、純粹資本(資金)ノ放下物トシテノ資本財

二、信用(資金ノ大部分ヲ占ム)ノ基礎トシテノ資本財

三、くらゐ氏ノ純粹資本ト資本財トノ關係ニ就イテノ説明

第四、諸家ノ批評ニ答フ

一、池田氏ニ答フ

二、高城氏ニ答フ

三、丸谷氏ニ答フ

第一、序 言

余ハ昨年ノ七月、本誌第三卷第一號ニ『資本ノ概念』ト題スル論文ヲ公ニシ、更ニ八九ノ両月、

論 說 純粹資本(資金)ト資本財トノ差別及ビ關係

第五卷(第二號 一九 一七五

同ク本誌第三卷第二號第三號ニ亙リテ『資本ノ眞概念ノ發展』ト題スル論文ヲ公ニシ、資本ノ本質ニ關シ少シク管見ヲ述ブル所アリシニ、幸ニシテ學界ノ注意ヲ惹キ、之ニ關シテ諸家ノ批評ヲ辱クスルニ至リシコトハ、余ノ甚ダ光榮トスル所デアル。今其批評文ヲ發表ノ順序ニ從ウテ列記スレバ、左ノ諸篇ハ則チ其ノ主ナルモノデアル。

一、『商業及經濟研究』(大阪高等商業學校發行)、第四冊、大正五年十月、『河上博士ノ「資本ノ概念」及「利子論上ノ貨幣說」ヲ讀ム』、池田實氏。

二、『國家學會雜誌』第三十卷第十一號、大正五年十一月、『河上博士ノ資本論ニ就テ』、高城仙次郎氏。

三、『國民經濟雜誌』第二十一卷第八號、大正五年十二月、『資本ノ概念ニ就テ河上博士ノ教ヲ乞フ』、丸谷喜市氏。

又本年三月、『經濟論叢』第四卷第三號ニハ、内田博士ノ『資本』ト題スル論文發表サレ、同ク本年五六ノ兩月、『國民經濟雜誌』第二十二卷第五號第六號ニ亙リテハ、興梠全太郎氏ノ『資本ノ眞相』ト題スル論文發表サレタリシガ、其中、内田博士ノ論文ニハ直接余ノ論ヲ批評サレタル所ナキモ、興梠氏ノソレニハ之ニ言及サレタル所アリ。⁽¹⁾ 猶余ガ論文ヲ發表セシ當時ニハ、福田博士、山崎博士等私信ヲ以テ余ニ教示セラルル所アリ。而シテ余ハ此等諸君ノ批評、論文、私信等ヲ讀

(1) 本論脱稿後『會計』第一卷第四號(本年七月發行)ニモ商學士小林行昌氏ノ『資本ノ變化ト其限界』ト題スル論文アルコトヲ發見セリ。

ムコトニ依リ、益ヲ享ケタルコト少カラズ。實ハ昨年末、池田、高城、丸谷諸君ノ批評ヲ受クルヤ、直ニ之ニ答辯スベキ筈ナリシモ、平生職務ノ爲ニ妨グラレ、其意ヲ遂ゲズシテ今日ニ及ビシガ、頃日始メテ思索ノ餘暇ヲ得、茲ニ漸ク其實ヲ果ス次第デアル。

既ニ述ベシ如ク、余ハ前記諸君ノ意見ヲ聽キテ益ヲ享ケタルコト尠カラズ。殊ニ余ガ資本ノ概念ハ狭キニ失セリトノ多數ノ非難ハ、余ノ特ニ承服セザルヲ得ザル所デアル。仍リテ茲ニハ舊稿ノ補充訂正ノ爲メ、先ヅ改メテ資本ト資本財トノ關係ヲ論ジ、然ル後必要ト認ムル限りニ於イテ、諸家ノ批評ノ要點ニ對シ答辯スル所アラントス。

第二、純粹資本(資金)ト資本財トノ區別

余ハ姑ク資本ヲ分ツテ狹義ノ資本及ビ廣義ノ資本ノ二種ト爲サント欲ス。茲ニ余ガ狹義ノ資本ト謂フハ、純粹ニ資本タルモノ、言ヒ換フレバ、資本タル性質ノ外他ノ性質ヲ兼テ有セザル物ノコトニシテ、之ト異リ、縱ヒ他ノ性質ヲ有スルモ、兎モ角同時ニ資本タルノ性質ヲ兼テ有スル物ハ、前者ト併セ稱シテ、之ヲ廣義ノ資本ト爲ス。而シテ余ノ見ル所ニ依レバ、資本ノ本質ヲ明カニスルノ要點ハ、所謂純粹資本ノ何物タルヤヲ明カニシ、廣狹二義ノ何レタルヲ問ハズ、凡テ資本ノ資本タル所以ノ特質ヲ吟味スルニ在リト信ズル。

(註) くらゐ氏が資本ト資本財トノ區別ヲ唱へ出シタルハ、一八八八年五月ニ公ニシタル Capital and its Earnings 題
スル論文ニ於イテナルガ、此時ハ資本ニ純粹ヲフ形容詞ヲ附シテ之ヲ純粹資本 (pure capital) ト名ケタリ。即チ氏ハ最初
純粹資本ト資本財 (capital-goods) トヲ對立セシメタリシニ、後純粹ヲフ形容詞ヲ削リテ、資本ト資本財トヲ對立セシムル
ニ至リシモノデアル。(1) 今余ハ便宜ノ爲メ、氏が一旦造リテ自ラ棄テタル此術語ヲバ、暫ク借り用ヒテ論ヲ進メントス。但シ
余ノ借用セントスルハ只言葉ノミ、其概念ヲモ其ノママ襲踏セントスルニハ非ズ。

資本ノ本質ヲ明カニスルガ爲ニハ、先ヅ交換價值ノ何物タルヤヲ明カニシナクレバ勿ラス。抑
ミ物ノ價值ハ之ヲ分ツテ交換價值及ビ使用價值ノ二種ト爲スコトヲ得ルモノナルガ、此二者ハ言
フ迄モナク全ク其性質ヲ異ニスルモノデアル。即チ物ノ使用價值ハ其物ノ物理的性質ヲ基本トス
ルモノニテ、例ヘバ水ニ一定ノ使用價值アルハ、其物が人ノ渴ヲ醫スト云フ物理的性質ヲ有スル
ガ爲ナリ。已ニ水ニハ此ノ如キ物理的性質アリ、故ニ之ヲ利用セントスル者出デ來リテ之ニ一定
ノ使用價值ヲ認ムルコトト爲ル。故ニ物ノ使用價值ハ、其物ト之ガ使用者トノ個別的、主觀的關
係ニ依ツテ左右サルモノニテ、例ヘバ同ジ水ナレドモ渴ケル者ハ之ニ多大ノ使用價值アリト爲
ジ、飽ケル者ハ之ニ向ツテ殆ド何等ノ使用價值ヲ認メザルガ如シ。然ルニ交換價值ナルモノハ、
之ト異リ、人ト人トガ一定ノ社會關係ヲ有シ居ルト云フコトガ其發生ノ基本デアル。從ウテ大海
ノ孤島ニ獨棲スル者ノ所有品ノ如キハ、其所有者ニ依リテ使用價值コソ認メラルレ、決シテ交換價
値ヲ有スル能ハザルモノデアル。サレバ物ノ使用價值ハ、其物ト之ガ使用者トノ個別的、主觀的

(1) Clark, The Distribution of Wealth, p. 120, n.

關係ニ依ツテ左右セラルルニ反シ、物ノ交換價值ナルモノハ、一定ノ社會ニ通用スル所ノ一般的、客觀的ノ價值デアル。此ノ如ク使用價值ト交換價值トハ其性質相同ジカラザルモノナルガ、更ニ注意スベキハ、此等二種ノ價值ハ或意味ニ於テ互ニ兩立シ得ザル性質ヲ有スト云フコトデアル。即チ或物ガ或人ニ對シテ交換價值ヲ有スルハ、其人ガ其物ニ向ツテ使用價值ヲ感ジ居ラザル間ノコトニシテ、若シ其人ガ其物ノ使用價值ヲ感ズルニ至ラバ、其時ニ其物ハ交換價值ヲ失フコトニ爲ル。例ヘバ煙草店ノ主人ハ如何ニ喫烟家ナリトモ、其店先ニ商品トシテ陳列シツツアル煙草ニ對シテハ、只交換價值ヲ認メ居ルノミ。然ルニ其中ノ何レカ一包ヲ取り來リテ、之ヲ自己ノ煙草入レニ納メテバ、其煙草ハ其時ニ商品タル性質ヲ失ヒ、其所有者ニ依リテ最早ヤ交換價值アルモノトシテ所持サレザルコトト爲ルト同時ニ、始メテ一定ノ使用價值アルモノトシテ取扱ハルルコトト爲ル。此ノ如ク此等二種ノ價值ハ互ニ相排斥スルノ性質ヲ有スルモノデアアル。

扱テ物ノ使用價值ト交換價值トハ以上述ブルガ如ク其性質相同ジカラザルモノナルガ、今財ノ中、交換價值ヲ有スルノ故ヲ以テ所有サレツツアル物ハ、之ヲ名ケテ商品ト謂フ。而シテ此商品ナルモノコソ、廣義ノ資本ノ中、最モ主要ナル部分ヲ占ムルモノデアアル。所謂商品生産 (Warenproduction) ヲ目的トスル現時ノ生産方法ガ資本的の生産方法 (die kapitalistische Produktionsweise) ト稱セラレ、又此ノ如キ生産方法ヲ基礎トスル現時ノ經濟組織ガ資本制 (Kapitalismus) ト稱セラ

ルモ、畢竟之が爲デアル。

商品が資本トセラルルハ其物が交換價值ヲ以テ生命トスルが爲デアル。然ルニ進ンデ考フレバ、此等商品ノ生産及び交易ノ爲ニ利用サレツツアル一切ノ財モ、亦同ジク交換價值ヲ以テ其生命ト爲セルモノト看做サナケレバナラヌ。何故ト云フニ、此等ノ財が其所有者ニ依ツテ價值アリトセラルル所以ハ、之ニ依リテ交換價值ヲ有スル所ノ商品ヲ生産シ、又ハ交換價值ヲ増加シ得ルが爲デアルカラデアル。而シテ此關係ニ依リ、此等ノ財モ商品ト同ジャウニ、矢張り廣義ノ資本中ニ包含セラル。原料、道具、機械等所謂生産手段ナルモノが資本トシテ計上セラルルハ之が爲デアル。乍併、茲ニ注意スベキコトハ、多クノ生産手段が資本トシテ計上セラルルノ事實アレバトテ、凡テノ生産手段ハ即チ資本ナリト誤解スベカラザルコトデアル。カノ家庭内ニ於イテ、自家用ノ爲メ營利ヲ目的トセズシテ生産サルモノハ、所謂商品ニハ非ズ。從ツテ此等ノ財ヲ生産スル爲ニ使用セラルル生産手段、例ヘバ鍋釜ノ如キハ、決シテ資本ト稱スベキモノニハ非ズ。若シ之ヲシモ資本ト謂フベクンバ、太古ノ野蠻人ハ勿論、或種ノ猿類モ一定ノ資本ヲ有シ居レリト云ハザルヲ得ザル筈ナレドモ、今日一般ニ資本家トカ資本的生産トカ謂フ場合ノ資本ナルモノハ、決シテ此ノ如キモノヲ指スノデハ無イ。

之ニ依ツテ見レバ、以上述べタル諸種ノ財が普通ニ資本ト稱セラルル所以ハ、其所有者が其等

ノ物ノ交換價值又ハ之ニ依ツテ實現サルベキ交換價值ヲ其眼目トシテ所有シツツアル爲デアル。
乍併、茲ニ進ンデ考フルノ必要アルハ、此等ノ財ハ決シテ交換價值ノミヲ有スルノ運命ニ置カレ
居ラザルコトデアル。例ヘバ商品ノ商品タル所以ハ、其所有者ガ之ヲ以テ交換價值ノ塊リト看做ス
點ニ在リトハ云ヘ、商品ソノモノハ、商品トシテノ所有者以外ノ何人カノ手ニ依リテ、早晚一定
ノ享樂ノ爲メ消費サルベキ享樂財デアルカ、又ハ斯カル享樂財ヲ生産スル爲ニ使用サルベキ生産
財デアル。而シテ此等ノ財ハ、此ノ如ク窮極ハ何人カノ爲ニ享樂財又ハ生産財トシテ一定ノ使用
價值ヲ有スルニ至ルベキ運命ヲ有スレバコソ、始メテ一定ノ社會ニ於イテ一定ノ交換價值ヲ有シ
得ルノデアル。況ンヤ此等商品ノ生産及ビ交易ノ爲ニ利用サレツツアル財ハ、其所有者ハ依リテ
現ニ生産手段トシテ使用サレツツアルモノナレバ、其使用價值ヲ離レテ交換價值ハ無イ。例ヘバ
織物機械ハ織物ヲ造リ出スガ爲ニ役立つト云フコトニ依リテ一定ノ使用價值ヲ有スルモノニテ、
即チ其物ハ決シテ交換價值ノミヲ有スルモノデハ無イ。乍併、其機械ニ依リテ織物ガ造リ出サル
ト云フコトハ、機械ノ物理的性質ニ本ク物理的關係デアツテ、コレアルガ爲ニ機械ガ資本トナル
ノデハ無イ。其機械ニ依リテ生産セラルル織物ガ商品タル場合ニ、機械ハ始メテ資本トナル。其
機械ノ所有者ガ商品トシテノ織物ヲ造リ出サンガ爲ニ之ヲ利用シツツアル限り、其商品ノ交換價
値ガ機械ニ反射シ來リテ之ヲ資本化スル也。サレバ余ガ、資本トシテノ機械ノ生命ガ其交換價值

ニアリト云フハ、機械ソノモノノ賣價ヲ指スニハ非ズ、機械ヲ利用シツツアル者ガ之ニ對シテ感ジツツアル價值ノ源ガ交換價值ニアリト云フ意味デアル。此ノ如ク、機械ヲ利用シツツアル者ガ之ニ對シテ感ジツツアル價值ノ源ガ交換價值ニ在ル場合ニ、機械ハ始メテ資本ト爲ルコトヲ得ルモノナレドモ、而カモ此等ノ機械ハ其使用價值ヲ離レテ交換價值ヲ有シ得ザルモノナルコト、以上述ブルガ如クデアル。

之ヲ要スルニ、以上述べタル諸種ノ財ハ、其所有者ニ依リテ交換價值ノ見地ヨリ價值ヅケラレツツアル點ニ於イテ、資本タルノ性質ヲ有シ得ルモノナレドモ、財ソノモノハ享樂財又ハ生産財ノ何レカニ屬シ、何レモ一定ノ使用價值ヲ有スルモノニテ、其點ニ於イテ此等ノモノハ凡テ純粹ノ資本ト謂フヲ得ザルモノデアル。然ルニ此等享樂財及ビ生産財ノ何レニモ屬セザル財ノ一大部門トシテ別ニ交換財ナルモノガアル。茲ニ交換財ト謂フハ、嘗テ論ジタルガ如ク、交換價值ノミヲ以テ其生命トスル財ニシテ、貨幣及ビ其代用物タル信用ガ之ニ屬スル。而シテ此等交換財ノ中、餘剩 (surplus) タル性質ヲ有スルモノ、言ヒ換フレバ、眼前 (current) ノ享樂ヨリ save サレタルモノ、即チ救ヒ出サレテ貯蓄サレタルモノガ摸型ナル純粹ノ資本ニシテ、之ヲ狹義ノ資本トナス。或ハ諸家ノ批評ニ從ヒ之ヲ資金ト稱シ置クモ差支ハ無イ。而シテ余ガ昨年『資本ノ概念』ト題シテ論ジタル所ノモノハ、凡テコノ狹義ノ資本ニ關スルモノ、其性質ノ大體ニ至リテハ當時略ボ

述ブル所アリシガ故ニ、今重ネテ述ベズ⁽³⁾

廣義ノ資本ノ中、狹義ノ資本即チ純粹資本又ハ資金ニ屬セザルモノヲ、余ハ姑ク名ケテ資本財ト謂フ。即チ余ノ用語ニ從ハバ、廣義ノ資本^バ之ヲ分ツテ、純粹資本(又ハ資金)ト資本財トノ二種ト爲スヲ得ルモノデアル。

昨年余ノ『資本概念』及ビ『資本ノ眞概念ノ發展』ノ二篇ヲ公ニスルヤ、當時余ハ、茲ニ所謂純粹資本ノ本質ヲ審カニシ、且之ト所謂資本財トノ區別ヲ明カニセントスルニ急ナルノ餘リ、純粹資本ノミヲ以テ資本ト爲シ、資本財ヲ以テ資本ニ非ズト論ジタレドモ、其後諸家ノ批評ヲ讀ミ、退イテ自ラ考フルニ、余ガ論ノ主要ノ缺點ハ即チ茲ニ在ルニ似タリ。是レ余ガ本篇ニ於イテ資本ノ意義ヲ擴張シ、廣義ノ資本ノ中ニハ、所謂純粹資本ノ外更ニ所謂資本財ヲ包含セシメントスルニ至リシ次第デアル。

第三、純粹資本(資金)ト資本財トノ關係

一、純粹資本(資金)ノ放下物トシテノ資本財

純粹資本又ハ資金ト資本財トノ區別ハ上述ノ如シ。然ラバ二者ノ關係ハ如何ニト云フニ、此問題ノ解決ノ爲ニハ、吾人ハ先ヅ資金貸借ノ性質ヲ明カニスルコトヨリ論ヲ始ムルヲ便利トスル。

(3) 大正五年七月發行、本誌第三卷第一號、拙稿『資本ノ概念』全部參照。

思フニ資金ノ貸借ハ名ハ貸借ト云ヘドモ、其實ハ一種ノ賣買ニ外ナラズ。蓋シ貨幣又ハ其代用物タル信用ニ依ツテ行ハルル取引ハ、之ヲ分ツテ二種ト爲スコトヲ得。其一ハ、貨幣又ハ信用ヲ以テ此等以外ノモノト交換スルコトヨリ成リ立チ、其二ハ、貨幣又ハ信用ヲ以テ同ジク貨幣又ハ信用ト交換スルコトヨリ成リ立ツ。而シテ所謂両換及ビ爲替ナルモノハ此後者ニ屬スルト同時ニ、吾人ノ茲ニ問題トセル資金ノ貸借ナルモノモ等シク之ニ屬スル。例ヘバ他日一定ノ貨幣ヲ支拂フベシトノ約束ニテ、今日一定ノ貨幣ヲ受取ルガ如キハ、所謂資金貸借ノ一ノ場合ナルガ、此場合ニ他日一定ノ貨幣ヲ支拂フベシトノ約束、之ヲ逆ニ言ハバ、將來一定ノ貨幣ヲ請求シ得ルノ權利ハ、所謂信用ナルモノデアル。サレバ此場合ニ於ケル資金ノ貸借ナルモノハ、或ハ時ヲ異ニスル貨幣ト貨幣トノ交換ト見ルベク、或ハ貨幣ト信用トノ交換ト見ルベキモノニテ、即チ何レニシテモ交換又ハ賣買ノ一種ニ外ナラヌモノデアル。

扱テ資金ノ貸借ニシテ已ニ一種ノ賣買ニ外ナラズトセバ、此種ノ賣買ハ他種ノ賣買ニ比シ果シテ如何ナル特徴ヲ有スルカト云フコトガ其ノ次ノ問題ニナルガ、余ノ見ル所ニ依レバ、資金貸借ノ場合ニハ其賣買ノ目的物が常ニ信用デアルト云フコト、其ガ此種ノ取引ノ特徴デアル。即チ一定ノ資金、言ヒ換フレバ、貨幣又ハ信用ヲ以テ、一定ノ信用ヲ置クト云フコト、其ガ所謂資金ノ貸借ナルモノデアル。然ルニ吾人ハ、一定ノ資金ヲ以テ啻ニ信用ヲ買フコトヲ得ルノミナラズ、

其他種々ノ財ヲ買フコトヲ得ルモノナルガ、其中一定ノ貨幣所得ヲ生ズルノ目的ヲ以テ、少クトモ其物ニ投ジタル貨幣價值ヲ維持スルノ目的ヲ以テ、或物ヲ買ヒ入レタル時ハ、吾人ハ其賣買ヲ名ケテ放資ト謂フ。茲ニ放資ト云フハ、一定ノ資金ヲ放下シタル意味ニテ、又放下ト云フハ之ガ回收ノ可能ナルコトヲ意味スル。言ヒ換フレバ、已ニ一定ノ資金ヲ以テ或物ヲ買ヒ入レタレドモ、其物ハ將來之ヲ賣却シ又ハ使用スルコトニ依リテ再ビ元ノ資金ニ還ヘシ得ルノ望アル場合ニ、之ヲ放資ト謂フ也。勿論人ガ其回收ヲ豫想シテ資金ノ放下ヲ爲スハ、通常(例外ノ場合アリ)一定ノ利得ヲ得ンガ爲デアル。然ラザレバ、一旦資金ヲ放下シナガラ、復タ元ノ資金トシテ之ヲ回收スト云フガ如キハ、無用ノ煩勞ニ屬スベキ筈デアル。故ニ其目的ヨリ言ヘバ、放資トハ人ガ一定ノ貨幣所得ヲ生ズルノ目的ヲ以テ或物ヲ買ヒ入ルルコトナリト言ヒテ、大體差支ナイ。

放資ノ意義此ノ如シ。而シテ此放資ノ目的物ハ畢竟資本財デアル。即チ放資者ガ一定ノ資金ヲ放下シ、再ビ之ヲ回收スルニ至ル迄、其資金ヲ具體化シ居ル財ハ、即チ資本財デアル。蓋シ已ニ一定ノ資金ヲ投ジテ或物ヲ買ヒ入レタリトスルモ、將來之ヲ賣却シ又ハ使用スルコトニ依リテ再ビ元ノ資金ニ還ヘシ得ベシトノ望ヲ以テ之ヲ所有シツツアル限り、其所有者ハ其物ノ交換價值又ハ之ニ依ツテ實現サルベキ交換價值ヲバ其眼目トシテ之ヲ所有シツツアル譯デアル。即チ其物ハ、余ガ先キニ述ベタル定義ニ照ラシテ、一ノ資本財ニ外ナラスノデアル。言ヒ換フレバ、純粹資本

タル資金ヲ具體化シ居ルモノガ資本財ニシテ、其物ハ、既ニ述ベシガ如ク、資金ト相合シテ廣義ノ資本ヲ形成シツツアルモノデアル。尤モ一定ノ資金ヲ以テ或物ヲ購買シタル時、將來再ビ其資金ヲ回收シ得ルノ希望アルヤ否ヤ、又其所有者ハ果シテ此ノ如キ希望ヲ有シツツアルヤ否ヤハ、第一ニハ其社會ニ於ケル一般取引ノ狀態ニ依リテ左右サレ、第二ニハ購買シタル財ソノモノノ性質ニ依リテ左右サレ、第三ニハ人々ノ主觀ニ依リテ異ルモノニテ、其程度ニハ勿論無限ノ差異アルノミナラス、又不斷ノ變化アルヲ免レズ。サレバ一定ノ資金ヲ以テ或物ヲ購買シタル時、之ヲ以テ放資ト看做スベキヤ否ヤ、又其ノ購買サレタル物ヲ以テ資本財ト看做スベキヤ否ヤニ就イテハ、決シテ截然タル區別又ハ境界アルニ非ズ。コレ放資又ハ資本ノ意義ニ就イテ學者間ニ種々ノ異見ヲ生ズル一原因ナレドモ、大體ニ於イテ其範圍ハ交通ノ發達ニツレテ次第ニ擴張サルノ傾向ヲ有ス。

以上述ブル所ニ依ツテ考フレバ、一定ノ資金ヲ以テ或物ヲ購買シタル時ハ、其ノ購買シタル物ノ性質ニ依リテ、其取引ハ三種類ニ分タル。

第一ハ、之ヲ以テ信用ヲ購買シタル場合ニシテ、之ヲ資金ノ貸借ト謂フ。而シテ狹義ノ利子即チ金利ナルモノハ此場合ニ生ズル。

第二ハ、之ヲ以テ資本財ヲ購買シタル場合ニシテ、之ヲ資本ノ放下ト謂フ。而シテ其資本財ヨ

リ生ズル所得ハ所謂賃料(rent)ト稱セラル、モノニシテ、前ニ述ベタル金利トハ全ク其性質ヲ異ニス。乍併、其賃料ガ資本財ノ價額ニ對シテ有スル割合即チ所謂利廻ナルモノニ至ツテハ、先ニ述ベタル金利ト密接ナル關係ヲ有スルノミナラズ、斯カル見方ヨリスレバ、資本財ノ賃料ハ又一種ノ利子デアルト看做シ得ラルル。即チ利子ナル言葉ヲ狹義ニ解スレバ金利ニ限ラルレドモ、之ヲ廣義ニ解スレバ、前ニ述ベタルガ如キ意味ニ於ケル資本財ノ利子モ亦其中ニ包含セラル。

第三ハ、一定ノ資金ヲ以テ或物ヲ購買シ、之ヲ以テ所得ヲ得ルノ目的ニ供ズルコトナク、又元本維持ノ用ニモ供ズルコトナキ場合ニシテ、之ヲ單純ノ散財(Spending)ト謂フ。即チ資金ハ或ハ之ヲ放下(Invest)スルコトヲ得ベク、或ハ之ヲ消費(Spend)スルコトヲ得ベキモノニテ、且放資ノ結果トシテ人ハ資本財ヲ有スルニ至レドモ、消費ノ結果トシテハ斯カル資本財ヲ生ズルノ望アルコト無シ。

二、信用(資金ノ大部分ヲ占ム)ノ基礎トシテノ資本財

扱テ以上述ベタル所ハ、資金放下ノ結果トシテ資本財ヲ生ズル場合ナレドモ、猶考フベキコトハ、資本財ガ基礎ト爲リテ資金ノ發生ヲ促ス場合デアル。即チ一方ニ於イテ資金ハ資本財ト爲ルト同時ニ、他方ニ於イテハ資本財ガ又資金ト爲ルコトアルモノニテ、カクテ此等二者ノ間ニハ相互ニ密接ナル關係ガ存在スルノデアル。今其大略ヲ述ベンニ、元來信用ノ受授ナルモノハ、或程

度、或範圍ニ於イテ資本財ヲ資金化セシムルモノト言ヒ得ラル。蓋シ資金ノ借主ナルモノハ、普通一定ノ商品又ハ證券乃至其他ノ財産ヲ有シツ、アル者ナルガ、而カモ此等ノ物ハ其ノ現在ノ形ニ於イテハ、之ヲバ一般的購買力ヲ有スルモノ即チ貨幣トシテ使用スルヲ得ザルモノデアル。例ヘバ、茲ニ一ノ機械製造業者アリトセンニ、其者ガ自己ノ倉庫内ニ藏セル機械ハ、之ヲ其ノマ、貨幣ノ代用物ト爲スコトヲ得ズ。乍併、彼ニシテ若シ此等ノ機械類ヲバ支拂ノ手段ニ供ジ得ルコトアランカ、彼ハ之ニ依リテ、ヨク多クノ材料ヲ購入シ、ヨク多クノ勞働ヲ使用シテ、次ノ販賣期ニ賣出スベキ機械ノ數量ヲ増加スルヲ得ベキガ故ニ、其ノ利益ナルコトハ言フヲ俟タズ。然ルニ所謂信用ノ受授ナルモノハ即チ這個ノ働ヲ爲シ得ルモノニテ、例ヘバ機械製造業者ハ其機械ヲ基礎トシテ借財ヲ爲シ、之ニ依リテ一定ノ貨幣又ハ其代用物ヲ入手シ得ルナラバ、彼ハ恰モ機械ソノモノヲ貨幣ニ換ヘタルト同ジ便宜ヲ享クルコトヲ得。コレ信用ナルモノガ人ノ財産ヲバ支拂ノ手段ニ鑄造スルノ働ヲ有スト稱セラル、所以デアル。然ルニ多クノ財ガ此ノ如キ關係ヨリ信用ノ基礎ト爲リツ、アルト云フコトハ、取リモ直サズ、多クノ資本財ハ信用ノ形ニ於イテ資金化サレツ、アルト云フコトヲ意味スル。即チ機械製造業者ガ一方ニ於イテ一萬圓ニ値スル機械(商品トシテノ資本財)ヲ有スレバ、他方ニ於イテハ銀行ニ對シ同ジク略ボ一萬圓ニ相當スル所ノ預金(信用トシテノ資金)ヲ有シ得ルノデアル。勿論信用ニシテ發達シ居ラザル限りハ、資本財ト資金

(4) "It is credit which enables men to coin property into means of payment."
Laughlin, Principles of Money, p. 79.

トノ間ニ此ノ如キ連絡ノ成立ヲ見ルコトナケレドモ、信用ノ發達ニツレテ次第ニ此ノ如キ連絡ヲ生ジ、遂ニハ殆ド凡テノ資本財ハ信用ニ依リテ資金化サレ、譬ヘバ影ノ形ニ伴フガ如ク、殆ド凡テノ資本財ハ其價額ヲ反射シテ資金ノ成立ヲ助クルニ至ル。資金ト資本財トハ全ク其性質ヲ異ニスルニ拘ラズ、而カモ二者ノ間ニ離ルベカラザル表裏ノ關係アルガ如ク見ユルハ、畢竟スルニ以上述べタルガ如キ信用ノ作用ニ本クモノデアル。

三、くらゐ氏ノ純粹資本(資金)ト資本財トノ關係ニ就イテノ説明

論ジテ茲ニ來ル時、余ハくらゐ氏ノ議論ニ就イテ簡單ナル批評ヲ加フルコトヲ禁ジ得ザルモノデアアル。蓋シ氏ハ始メテ純粹資本(後ニハ單ニ資本ト云ヘリ)ト資本財トノ區別ヲ唱道セシ學者ナルガ、而カモ此區別ニ關スル氏ノ説明ニハ徹底セザル所甚ダ多シ。乍併、今ニシテ思ヘバ、氏ノ説ニ徹底セザル所アルハ、恐ラク純粹資本(資金)ノ成立ト其基礎タル資本財トノ關係ニ就イテ明瞭ナル理解ヲ缺キタリシガ爲デアラウ。

資本ト資本財トノ區別ニ關スルくらゐ氏ノ説明ハ、嘗テ稍々委シク之ヲ紹介シ置キタリシガ、⁽⁵⁾今重ネテ其要點ヲ述ベンニ、第一ハ、資本ハ永續性ヲ有スレドモ資本財ハ絶エズ破壊サルト云フコトデアリ、第二ハ、資本ハ完全ナル移動性ヲ有スルモ資本財ハ然ラズト云フコトデアリ、第三ハ、資本財ハ使用サルルニ從ウテ破壊サルルガ故ニ其生命ニ限リアレドモ、資本ニハ、日トカ月

(5) 本誌第三卷第二號、四三頁以下。

トカ年トカ云フ勝手ナ區分ヲ用ヒヌ限り、其ノ永續ノ生命ニ期間ヲ劃スベキ途ガ無イト云フコト等デアルガ、此等ノ説明ハ其ノママ移シテ余ノ所謂純粹資本(資金)ト資本財トノ區別ニ用フルコトヲ得ル。只氏ノ議論中最モ非難多ク且曖昧ナル點ハ、氏ガ資本ノ抽象性ヲ論ジタル簡條デア。氏ハ、資本財ハ具體的且有形の財ナレドモ、資本ハ常ニ抽象的表現ノ手段ニ依リ貨幣價值ヲ以テ其分量ヲ表示サレツツアルモノナリト爲シ、之ヲ以テ更ニ資本ト資本財トノ區別ノ一要點デアルトシテ居ル。而シテ氏ノ説明ガ只コレダケニ止ツテ居レバ問題ハ無イガ、如何セン氏ハ資本ノ抽象性ヲ指摘シナガラ、同時ニ『資本ナルモノハ生産用具カラ成リ立ツ、ソウシテ此等ノ生産用具ハ常ニ具體的且有形のモノデアル』ト論ジ居ルガ爲ニ、ソコデ氏ノ所謂資本ノ本體如何、之ト資本財トノ區別如何ト云フコトガ、甚シク疑問ニ爲ツテ來ルノデアアル。故ニ余ハ嘗テ此點ヲ批評シテ氏ガ『資本ト資本財トノ間ニ無用ノ橋ヲ架ケントスルガ混雜ノ元デアアル』ト言ツタ。併シ今ニシテ考フレバ、資本ト資本財トノ間ニハ矢張り一定ノ橋ハ入用デアルケレドモ、只くらゝ氏ノ架ケタ橋ハ徒ニ吾人ヲ迷宮ニ導クノミノモノデアツテ、眞實鞏固ノ橋ハ資本財ガ其價額ヲ反射シテ資金(くらゝ氏ノ所謂資本ニ相當スベキモノ)ノ成立ヲ助ケル點ニ架クベキモノナノデアアル。

第四、諸家ノ批評ニ答フ

(5) The Distribution of Wealth, p. 118.

(6) 本誌第三卷第二號四九頁。猶同誌同號四五頁以下及ビ四七頁以下五一頁ニ至ル間參照。

余ガ諸家ノ批評ヲ受ケテ自説ヲ改ムルニ至リタル主要ノ部分ハ、資本ノ概念ヲ擴張シ、廣義ノ資本ノ中ニハ資金ノ外資本財ヲモ包含スルモノナリト爲スニ至リタル點デアル。而シテ已ニ此ノ如ク自説ヲ改ムルニ至リタル以上、諸家ノ批評ノ中ソノ主ナルモノニハ殆ド之ニ承服セシカ然ラズンバ自ラ之ニ向ツテ答辯セシ次第ナレバ、此點ニ就イテハ今一々諸家ノ説ニ答フルコトヲ爲サズ、只茲ニ謹デ感謝ノ意ヲ表スルニ止メ置カントス。然レドモ諸家ノ説ハ自ラ多岐ニ亘リ、未ダ以上ヲ以テ盡サザル所アリ、而シテ之ニ答ヘザルハ禮ニ非ザルベキヲ以テ、以下少シク殘餘ノ問題ニ言及シテ此篇ヲ終フルコトト爲スベシ。

一、池田氏ニ答フ

池田氏ノ言ニ依レバ、資本ハ凡テ交換財ヨリノミ成ルト云フ余ガ舊説ハ、『最モ議論ノ起ル焦點』デアルト云フコトデアルガ、此點ハ既ニ述ベシ如ク諸氏ノ説ニ從ツテ新タニ修正ヲ加ヘタレバ、余ノ改メテ批評ヲ仰ガントスル所デアル。

氏ノ批評中依然トシテ余ノ承服セザル點ハ、資本ノ消費サレ得ルモノナルコトデアル。氏ハ『資本ノ消費ナル成句ハ頗ル珍妙ナモノ』ト批評サレタレドモ、余ハ別ニ珍ラシキモノトハ思ハズ。⁽¹⁾今日ノ經濟界ニ於イテ最モ多ク資本ヲ消費スルモノハ各國ノ軍備ニテ、殊ニ現在ニ於イテハ歐洲ニ大戰アリ、資本ノ消費サルルコト夥シ。而シテ此ノ如キ原因ヨリ生ズル資本ノ需要ハ、學者ノ

・ (1) 商業及經濟研究、第四冊、一四一頁。

所謂不生産の需要ニシテ、ソガ資本ノ需要ノ上、從ツテ其利子ノ上ニ少カラザル影響ヲ及ボスモノナルコトハ、恐ラク多クノ人ノ異議ナカルベキ所、乃チ資本ノ消費ト云フテ別ニ差支ナカルベシト信ズル。尤モくらゝ氏ノ如ク資本ノ利子ヲ説明スルニ限界生産力説ヲ探レル者ハ、資本ハ凡テ生産ノ目的ノ爲ニノミ需要サルルガ如ク説明スレドモ、此點ハ恐ラク彼等ノ誤解ニテ、資本ハ消費ノ目的ノ爲ニモ同様ニ需要サルルモノナラント考フ。

二、高城氏ニ答フ

高城氏ノ批評ニ依リテ余ノ益ヲ享ケタル點ハ、他ノ諸氏ノ批評ニ對スルト同様ニ余ノ謹ンデ感謝スル所デアルガ、併シ氏ノ批評ノ態度ソノモノニ對シテハ余ハ甚ダ不服デアル。事學理ノ考究ニ直接ノ關係ナクレドモ、試ニ思フ所ヲ述ベン。

氏ハ『河上博士ハ貨幣又ハ貨幣要求權ヲ資本ト稱スル者ハ博士獨創ノ意見ニシテ他ニ此説ヲ發表セル學者ハ或ハアルマイト想像サレテ居ル様ナルガ、此見解ハ必ズシモ新シキモノデナク、之ト同一カ又ハ類似ノ思想ハ過去ニ於テ處々ニ吾人ノ散見スル所デアル』ト述べ、Economistノ前主筆ハ「すゑ氏 The Export of Capitalノ著者」ト云ふ「すゑ氏 International Financeノ著者」ト云ふ「すゑ氏 Principle d'Economie Politiqueノ著者」ト云ふ氏等ノ議論ノ一節ヲ列舉セラレタ。ソウシテ之ニ續イテ次ノ如キコトヲ述ベラレテ居ル。

『然ラバ此等ノ學者ガ與ヘラレタル資本ノ定義ガ河上博士ノ資本ノ定義ト同一デハナイカ、若シ同一ナラバ河上博士ノ説ハ他ノ有力ナル學者ノ説ト合致スルモノデアルカラ、假令河上説ガ誤レリトスルモ、河上氏ノミチ責ムルコトガ出来ナイト思フ人モアロウ。然リ、若シ河上氏ノ定義ガ此等歐洲ノ大家ノ説ト全然同一ナリトセバ、河上説ハ誤レリトスルモ、稍々有力ナルモノト認メザルヲ得ナイ。サレド同時ニ河上説ガ氏ノ獨創説ナリトノ見解ハ何等ノ根拠ヲ有シナイコトニナル』⁽²⁾

余ハ此種ノ論法ニ對シ甚シキ反感ヲ有スルコトナシニ之ヲ讀過シ得ザルモノナルコトヲ茲ニ告白セザルヲ得ザルヲ遺憾トス。何故ト云フニ、縱ヒ日本ノ學界ガ如何ニ幼稚ナルニセヨ、又余ガ如何ニ幼稚ナル學究ナルニセヨ、兎モ角余ハ資本ノ真相ヲ闡明スルコトノミヲ目的トシテ前後二篇ノ論文ヲ公ニシタノデアル。然ルニ高城氏ハ、余ガ論旨ヲバ、歐洲大家ノ著書ニ散見スル數行ノ文字——氏ノ擧ゲラレタウいざー氏ノ定義ナドハ只 Money-saved and lent is capital ト云フダケノモノデアル——ト比較シ、若シ之ト全然同一ナラバ、縱ヒ河上説ハ誤レリトスルモ稍々有力ナルモノト認メザルヲ得ナイナドト論ジテ居ラルルガ、此ノ如ク余ガ説ノ有力無力ヲ歐洲大家ノ所説ト全然同一ナルヤ否ヤヲ標準トシテ批判サルコトハ、余ノ耐エ得ザル所デアル。本邦ノ學界ニ於イテ眞理ヲ探究シツツアル無力ナル一學究ガ、此ノ如ク歐洲大家ノ前ニ引キ出サレ、單ニ多數決ヲ以テ裁判サルルコトハ、此ノ上モナク憐ムベキコトデアル。縱ヒ議論ノ餘波ニモセヨ、此ノ如キ價值判斷ノ標準ハ、我國學問ノ進歩ノ爲メ、余ハ絶對ニ排斥シタイト思フ。

三、丸谷氏ニ答フ

丸谷氏ノ批評ニ對シ答フベキ點ハ略ボ以上ノ何レカノ場所ニ於イテ盡セリト信ズ。仍ツテ茲ニハ只氏ガ交換財ノ範圍ニ就イテ批評サレタル點ニ就イテ一言シ置カンニ、氏ノ述べラレタル如ク購買力ヲ有スルモノハ貨幣小切手等ニ限ルニ非ズ、商品モ機械モ家屋モ勞力モ同ジク或程度ノ購買力ヲ有スルモノニテ、其點ヨリ言ヘバ、此等ノモノノ『交換能力若クハ流通能力』ニハ只程度ノ差アルノミ。然ラバ余ハ何ガ故ニ貨幣ト信用トノミヲ以テ狹義ノ資本ノ内容ヲ形成スルモノト爲スカト云フニ、ソハ嘗テ述べタル如ク、此等ノモノハ單ニ交換價值ノミヲ有シ毫モ使用價值ヲ有シ能ハザル點ニ於イテ他ノ財ト大ニ其性質ヲ異ニシ、從ツテ經濟上特種ノ作用ヲ有スルガ爲デアル。(此ノ如キ性質ヲ有スルモノハ貨幣及ビ信用ノ外ニ猶在リト云フコトナラバ、余ハ其ニ應ジテ資金ノ内容ヲ擴張セントスルモノデアル)。尤モ物ノ區別ハ畢竟ハ便宜ノ問題ニテ、例ヘバ動物ト植物トノ限界ノ必ズシモ明カナラザルガ如ク、又植物ノ花ト葉トノ區別ノ必ズシモ明カナラザルガ如キ場合少カラザレドモ、ソハ強イテ答ムベキコトニ非ザルベシト思フ。現ニ余ガ本篇ニ於イテ述ベシ資本財ノ意義ノ如キ、之ヲ實際ニ當嵌メントスル時ハ、資本財ト然ラザルモノトノ限界ハ至ク程度問題ト爲リ了ルベケレドモ、余ハ其ニテ差支ナカルベシト思フ。

以上諸家ノ說ニ答フル所甚ダ盡サザレドモ、今ハ姑ク之ヲ以テ筆ヲ擱カント欲ス。願ハクバ其ノ備ラザルヲ答メラレザランコトヲ。